

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名	みやき町立北茂安中学校
1 前年度 評価結果の概要	・「1日当たりのゲーム、SNS利用に費やす時間が2時間以下」と答えた生徒は55%と前年度より改善しているが、「毎日1時間30分以上の家庭学習を行っているか」の調査結果は1月調査で51%で改善が必要である。今年度、校内研修で検査結果をもとに学習意欲を高めるために授業の受ける心構えや家庭学習に取り組むための計画の立て方など講師を招き生徒、教職員ともに学んできた。今後も生徒一人一人、個に応じた学習方法について改善を進めていく。 ・本校目標に沿って授業、学校行事、部活動にと出番、役割をつくり夢や目標に向かってチャレンジすることを支援し、将来を見通し学校生活送るためにキャリア教育の充実について重点的に取り組む必要がある。
2 学校教育目標	夢や目夢をもち、チャレンジ精神と思いやりの心に満ちあふれた生徒の育成

3 本年度の重点目標	① 体験活動をととして望ましい人間関係づくりを進め、人間関係形成能力を育成する。 ② 学ぶ意欲、学び方、学習習慣の育成と基礎・基本の定着を回り、学力の向上をめざす。 ③ 総合的な学習の時間における課題解決学習をととして、主体的に学ぶ態度を育成する。(学びの土台づくり) ④ キャリア教育により自己の生き方を考えさせ、キャリアプランニング能力を育成する。(自己実現の土台づくり) ⑤ 安心安全で生徒が明るく活動できる環境を作る。
------------	---

4 重点取組内容・成果指標				5 最終評価			
(1)共通評価項目							
重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践	○「家庭学習を毎日1時間半以上している」について肯定的な回答をした生徒60%以上	・校内研究を通して生徒理解を深める。 ①「北っ子学習三か条」を軸とした授業 ②「授業づくりのステップ1.2.3」を踏まえた授業展開 ③AAI検査等の結果を活用した生徒理解	B	・校内研究会で教科の枠にとらわれず、授業で実践している取組を話し合うことでいい刺激になり、実際に他教科の取り組みを実践している教科もある。しかし、学力向上につながるまでには、もう少し時間を要すると考える。 ・毎日の授業に向上心を持って積極的にチャレンジしていると思うと答えた生徒は85%であり、8割以上の生徒が学校での学習に意欲的である。一方、家庭学習を毎日1時間以上しているかについては47%と昨年度より4%下回った。昨年度と比べて3年生は58%➡77%と大きく上回り、1年生は45%➡37%、2年生は49%➡29%と大きく下回った。日々の学習意欲の向上に効果的であった取組を全職員で共有し、継続していく。また、三者面談でも保護者への啓発を併せて行っていく。	B	・学力の中でも点数化されないものについても大切にしてほしい。 ・学校のみ対応は難しく、逆に家庭への指導も難しい。両社が支えあいたがいに取り組むことで、子供に対し、相互の理組を共有し、支えあうことができると思う。両社の協力体制を共有していきたい。
	○学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○「毎日の授業に向上心を持って積極的にチャレンジしていると思う」について肯定的な回答をした生徒85%以上	・「児童生徒の学力向上対策4つの取組」リーフレットを踏まえ、生徒指導の機能を生かした授業づくりを進める。 ・QU検査を活用し「自己肯定感」が持てない生徒を確認し、学級・学校行事への参加を促し、称揚を行う場を設定する。		・道徳科では、ティームティーチングやローテーション道徳などを取り入れ指導方法を工夫改善しながら生徒の心に響く授業を行う。		・道徳の授業においてしっかり筋道を立て、考えている様子がうかがえる。
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳の授業が役に立っているという生徒80%以上	・隔週でアンケートを行い、生徒の抱える課題を早期に発見し、解消・改善に向けて組織的かつ速やかに対応する。 ・法に基づくいじめの定義を生徒、職員が理解し組織的に対応する。また、新生徒指導提要等を活用し生徒理解について職員研修を行う。		・生徒に対する隔週でのアンケートや生徒・保護者に対する年2回のアンケートを実施することで、早期に聞き取り、情報共有を行い、いじめの認知を行うことができた。		・保護者の回答する側としてもインターネットで実施してもらった方が、隙間時間であったり、仕事の休憩中に返答ができ、スムーズになったと思う。
●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○学校がいじめ防止に取り組んでいると思う生徒90%以上	・機会をとらえ自己有用感・自己肯定感を育み、自他ともに大切にす る生徒の育成に努める。	A	・集会で目標を生徒に述べさせたり、各行事が終わった後に他学年へのメッセージを書いたりすることで、自己肯定感や他者への感謝の気持ち深めさせることができた。	A	・保護者の回答する側としてもインターネットで実施してもらった方が、隙間時間であったり、仕事の休憩中に返答ができ、スムーズになったと思う。
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたの良いところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒80%以上 ○今までよりチャレンジすることができると思う生徒80%以上	・職場体験活動の充実のため、職場体験施設を活用し、様々な職業を体験できる機会を設ける。 ・各種体験活動では学びの振り返りを行い、キャリアパスポートを定期的に作成・整理する。 ・開発的生徒指導を推進し生徒の出番、役割、承認の場を確保しながら、自己決定の機会を増やしていく。		・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒は71%であった。目標値を9ポイント下回った。 ・今までよりチャレンジすることができるが多くなったと思う生徒は76%であった。目標値を4ポイント下回った。 ・挑戦の記録の掲示は生徒のチャレンジを促すことに一定の効果があったと考えられる。		・現段階で、「将来の夢や目標を持っている」というが、あるに越したことはないと思うが、挑戦をしながら見定めるものではないだろうか。現状維持で十分と思う。

●健康・体づくり	㊟「望ましい生活習慣の形成」	○日頃からバランスの良い食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思うと答えた生徒80%以上 ○1日当たりのゲーム、SNS利用に費やす時間が2時間以上と答えた生徒50%未満	・望ましい食習慣や生活習慣の形成に向けて授業や保健指導を行い、健康増進に向けて意識の向上を図る。 ・保健だよりの発行、掲示物の充実。 ・SNSの弊害の説明だけでなく生活習慣を見直し、睡眠の重要性や、時間の使い方について学び、個に応じた家庭学習の方法について考えさせる機会をつくる。	A	・日頃からバランスの良い食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思うと答えた生徒は89%を達成。給食時や集会を活用し、繰り返し食育や生活習慣に関する指導を行った。 ・1日当たりのゲーム、SNS利用に費やす時間が2時間以下と答えた生徒は48%で目標値に2%足りなかったが、23時まで就寝した生徒は64%に増加した。「みやき地区ネットワーク指針」の保護者への直接配布や、睡眠・SNSの弊害についての指導や掲示等、一定の効果があつたと考えられる。	A	・食育といった視点から見ると、栄養教諭の指導のもと、しっかりした指導ができてるのは有難い。成長期の子供の体を考え、対応いただき有難い。 ・一方でSNS等の利用は、減少傾向にないのは残念である。利用について、もう少し家庭、学校で考え改善をする必要がある。
	○安全に関する資質・能力の育成	○児童生徒の交通事故発生件数を前年度以下	・生徒会による交通安全教室の実施。 ・毎月1日、20日登校時の交通指導の実施。 ・交通安全県民運動期間に合わせた交通指導の実施。 ・定期的な自転車点検の実施。	A	生徒の交通事故は2月現在2件。昨年度より5件減少している。反射たすきが昨年度から導入され、今年度より下校指導で、ヘルメットとともに着用を徹底させたことが成果として出た。引き続き、交通ルールを遵守し危険から身を守ることにについて指導を行っていく。	A	・交通ルールについては、普段の指導が不可欠だと思う。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・I校務シェアボード等を有効に活用し、職員連絡会や会議時間の短縮を図る。 ・定時退勤日を原則月曜日に定め、部活動休養日の適正履行。	B	・業務記録の1か月1人当たり平均の時間外在校等時間は昨年度46.9→34.0時間に減少した。一方で、45時間以上の職員が15%おり、一部の職員への偏りを改善することが課題である。	B	・部活動指導の負担の軽減が必要である。
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○特別支援に関する専門性が向上した教員80%以上	・特別支援に関する研修会の実施 ・ケース会議の開催、情報共有	A	・2学期から3学期に入って特別支援学級担当者の研修会を3回ほど行った。 ・ケース会議を受けて対応するためにSSW・SCや病院との連携を図り動くことができている。	A	・特別支援教育について今後も研修を重ねてほしい。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目							
重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○教職員の資質・能力の向上	○教職員の経験や役割に応じた資質・能力の向上	○自分の資質・能力が向上したと思う教職員80%以上					
			・教育センター研修受講奨励、研究会への参加を奨励する。 ・校内研究を軸に生徒の実態に即した学習スキルの定着を図る。 ・校務分掌を通して、職員同士が互いに支え合い、学び合う組織風土を熟成する。	A	・研修会や日々の業務を通して、自分の資質・能力が向上したと思う教職員が95%であった。意識向上をつなげた。 ・校内研究や校務分掌を通して、職員同士が互いに学び合い、より良い教育活動を行おうとする組織風土が育まれた。	A	・授業参観を通して、先生方の努力が見られる。

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	・本校目標に沿って授業、学校行事、部活動にと出番、役割をつくり、夢や目標に向かってチャレンジすることを支援することができた。特に生徒会を中心として、生徒が周囲との対話を重視しながら、主体的に考え行動する姿が見られた。今後もこれを継続させていきたい。 ・登下校の交通ルールの遵守につながる安全教育は、命を守るために今後もより一層の充実を図りたい。 ・いじめや不登校の未然防止に向けて、今後も自己有用感・自己肯定感を育み、自他ともに大切にする生徒の育成に努める。また、相談しやすい体制づくりを促進していく。 ・「一日当たりにゲーム、SNS利用に費やす時間が2時間以下」と答えた生徒の割合には課題が残り、今後も家庭と連携しながら改善を進めていく。
----------------------	---